



明けましておめでとうございます

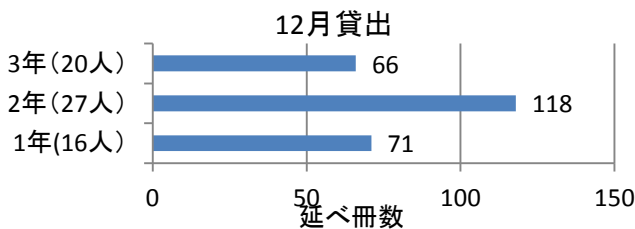


6日は、二十四節気で小寒（しょうかん）。寒の入りで本格的な寒さがやってきます。

うす壁にずんずと寒が入りにけり 一茶

小寒から2月の立春までを「寒中」といいますが、このような二十四節気をみなさんはどの位知っていますか。二十四節気は中国から伝わったもので、春夏秋冬を6つずつに分けたものです。冬で言うならば立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒があります。昔の人は、季節の微妙な移ろいを敏感にとらえていたのでしょう。図書室にある「日本の二十四節気・七十二候」という本にさらに詳しく書いてありますので、読んでみてくださいね。

そして“今年は暖冬だ”と言われながらもやっぱり寒い中、一年を締めくくる3学期がスタートしました。3年生のみなさん、「受験」という二文字が目の前にちらつき、緊張感が漂ってくることでしょう。ぜひ読書でリラックスして、いい「春」を迎えてくださいね。



今月の移動図書館「ゆめはこぶくん」

★1月17日(木) 昼休み



おすすめ本



そして、バトンは渡された 瀬尾まいこ 著

森宮優子、十七歳。継父継母が変われば名字も変わる。だけどいつでも両親を愛し、愛されていた。この著者にしか描けない優しい物語。「私には父親が三人、母親が二人いる。家族の形態は、十七年間で七回も変わった。でも、全然不幸ではないのだ。」身近な人が愛おしくなる感動作。



まぼろしの薬売り 楠章子 著

明治の始め、薬売りの美しい若者時雨(しぐれ)と、お供の元気な小僧小雨(こさめ)。病いに向き合い、旅を続けていく二人。けものふるまいを見せはじめた娘の生立ちや、はやり病いで全滅した村など薬の届かない地を渡り歩き不思議な病と懸命に向き合っていく物語。そして明らかになる時雨の秘密とは…。

続編「夢見の占い師」もあります



まっすぐな地平線 森島いずみ 著

カメラマンの父親の取材に同行した悠介は、北京で明明という中国人のおばさんと知り合う。3年後、その明明が、日本にやってきた。まっすぐな性格の明明に振りまわされる悠介。だが、明明には、心に秘めた過去があった。国境を越えた人と人との結びつきをやさしく描く。



店主は猫 猫婦人 著

うさこちゃん 藤本雅秋 写真



ずー 人生はZOOっと楽しい! 水野敬也 長沼直樹 著

